小学校低学年へのおすすめ本８冊

01 『りんごかもしれない』
ヨシタケ シンスケ／作
ブロンズ新社（2013 年）

ぼくがオススメする理由は、「りんご」という１つのくだものから、いろんなことを想像して考えを広げているからです。りんごの頭文字を変えるページがおもしろかったです。（三小・末永 哲さん）

02 『ともだちほしいなおおかみくん』
さくら ともこ／作
いもと ようこ／絵
岩崎書店（1986 年）

こわいおおかみのおはなしはおおいけど、やさしいおおかみもいるのです。みんなとあそびたくてがんばるおおかみに、おともだちはできるでしょうか。

03 『11 ぴきのねこ』
馬場 のぼる／著
こぐま社（1967 年）

いつもおなかをすかせている 11 ぴきののらねこ。おなかいっぱいたべるために大きなさかなをとりにいくことにしました。11 ぴきのねこと大きなさかなのたたかいはどうなるのか？

04 『ピヨピヨスーパーマーケット』
工藤 ノリコ／著
佼成出版社（2003 年）

おもしろかった部分は、いっぱいおかしをかったのにけっきょくかえなかったところ。おすすめしたい部分は、ごはんをつくっているときにお父さんといっしょにおふろに入るところ！（三小・末永 遼さん）

05 『バムとケロのおかいもの』
島田 ゆか／作・絵
文渓堂（1999 年）

かえるのケロちゃんと白犬のバムは、つきにいちどのおかいものにでかけます。すてきなものをかって、おいしいものをたべて、そろそろかえろうとおもったら…。

06 『100 かいだてのいえ』
岩井 俊雄／著
偕成社（2008 年）

ある日、トチくんのもとに 100 かいだてのいえにすむだれかからてがみがとどきます。10 かいごとにちがうどうぶつがすむいえ。つぎのかいにすんでいるのは？

07 『パンダ銭湯』
tupera tupera／作
絵本館（2013 年）

パンダのかぞくは、パンダのためのおふろやさんにやってきました。おふろにはいるにはふくをぬがないといけません。パンダはどうやってはいるのでしょう。

08 『大ピンチずかん』
鈴木 のりたけ／作
小学館（2022 年）

よのなかでおきるさまざまな大ピンチと、そのきりぬけかたや、にている大ピンチなどをしょうかいした本です。

☆マークがついている本は、読書リーダーがコメントを書いてくれました！

たくさんおすすめの本をおしえてくれて、ありがとうございました！

小学校中学年へのおすすめ本８冊

09 『こまったさんのサンドイッチ』
寺村 輝夫／作
岡本 颯子／画
あかね書房（1987 年）

小学生の頃、何十回も読んでいました。ストーリー内で楽しく料理をおぼえられます。なにより、こまったさんシリーズはちいさい子でも楽しく読むことが出来ると思います。ぜひ読んでみてください。（三中・新庄 知彩さん）

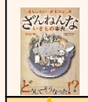
10 『たまごのはなし』
しおたに まみこ／作
ブロンズ新社（2021 年）

長いことキッチンにいたたまご。ある日とつぜん、動くことを決めます。さんぽをしながら、雨の音を聞きながら、どんなことをかんがえるのでしょう。

11 『いるのいないの』
京極 夏彦／作
町田 尚子／絵
岩崎書店（2012 年）

暗く古い家に暮らすことになった男の子。天井を見上げるとおこった男の顔を見た気がした。みまちがいか本当にいるのか…。

12 『ざんねんないきもの事典』
今泉 忠明／監修
高橋書店（2016 年）



生き物にもかっこいい姿だけでなく、ちょっとざんねんな姿もあるのです。お気に入りの生き物を見つけてみてください。

13 『にげたエビフライ』
村上 しいこ／作
さとう めぐみ／絵
講談社（2017 年）

人間みたいにエビフライが動いていておもしろかったです。にげたエビフライをがんばって追いかけているのがかわいいと思いました。エビフライがお化粧されている所は笑ってしまいました。エビフライがにげている理由を知って納得しました。色々なあげ物が出てきてすごくおもしろかったです。（一小・乙幡 栞乃子さん）

14 『ルルとララのガトーショコラ』
あんびる やすこ／作・絵
岩崎書店（2021 年）

私がおすすめしたい部分はハリネズミのローラが冬のねむりからいつもより少しはやく目をさましてしまった。ローラが冬をたのしめるようにルルとララがケーキを作ろうとする物語です。ルルとララが作ろうとするガトーショコラは、ページのとちゅうにレシピがのっていて文字も大きいので読みやすいです。読んでみてください。（七小・清水 心花さん）

15 『はれときどきぶた』
矢玉 四郎／作・絵
岩崎書店（1980 年）

のりやす君はつけている日記をお母さんに見られてしまったのがいやでした。ある日からありもしないヘンテコな内容を書いていたのですが…。

16 『一つの花』
今西 祐行／作
鈴木 義治／絵
ポプラ社（1975 年）

「一つだけ」と言って、戦争で物がない中食べ物をねだるゆみこ。お父さんが戦争へ行く日にもおねだりが始まります。そんなゆみこにお父さんがあげたのは…。

小学校高学年へのおすすめ本８冊

17 『十年屋 』
廣嶋 玲子／作
佐竹 美保／画
静山社（2018 年）

このお話は、忘れたくても忘れられない大切なものや思い出を魔法で預かってもらうお話です。とくにおすすめしたい部分は「約束の雪だるま」というお話です。ロロという男の子がカウリという女の子に雪だるまを作ってあげるけどカウリは体が弱くて入院することになってしまい… 。（六小・岡本 優彩子さん）

18 『言葉屋』
久米 絵美里／著
朝日学生新聞社（2014 年）

言葉の選び方、使い方に気を配ろうと思える本です。私はこの本を読んで「言葉にする勇気」と「言葉を口にする勇気」ということがすごくいんしょうにのこりました。もっと前からこの本を読んでおけばよかったなと思いました。（四小・髙橋 愛莉さん）

19 『よみがえる怪談灰色の本』
緑川 聖司／作
竹岡 美穂／絵
ポプラ社（2017 年）

短編集の中で特におすすめしたい話は、第七話のひとりかくれんぼです。ひとりかくれんぼは、簡単に言うとこうれい術の一種で、行うと、れいが集まるのだとか。そんな第七話を私はおすすめします。（二中・福田 倖由さん）

20 『本を守ろうとする猫の話』
夏川 草介／著
小学館（2017 年）

祖父を亡くし夏木書店を閉店。夏木林太郎がトラネコのトラと会いいろいろな迷宮にとじこめられている、たくさんの本を助け出すお話です。（六小・米山 陽向さん）

21 『ハリー・ポッターと賢者の石』
J.K.ローリング／著
静山社（1999 年）

内容はハリー・ポッターという人にホグワーツ魔法魔術学校への入学を許可する手紙が来る。そしてハリー・ポッターはその学校に通うが…。僕が特に面白かったのは最後の方のハリー・ポッターが賢者の石を取り戻したところです。（二小・中山 浩希さん）

22 『放課後ゆ～れい部の事件ファイル』
朝里 樹／作
よん／絵
集英社（2021 年）

ゆうれいが出てくるのでこわい部分も少しあるけど、登場人物たちのほんわかしたふんいきの会話があるので、こわいのが好きだけどなかなか見られない人も見やすい。たまにさし絵があったり、ふりがながふってあるので読みやすい。ただこわいだけでなく、ゆうれいとたたかったり、じょうぶつさせたり色々なてんかいがある。（一中・アシスデランデス 珠莉亜さん）

23 『徳川家康』
小和田 哲男／監修
小学館（2011 年）

おだのぶながと仲良かったというところがはじめてしっておもしろかったです。また、子どものときにおだとあったところをおすすめしたい。（五小・内藤 環紀さん）

24 『しあわせの牛乳』
佐藤 慧／著
ポプラ社（2018 年）

中洞さんの作る牛乳は、ふつうに売っているものと一味ちがいます。牛も幸せな理想のらくのうを追い求めるすがたに、自分が何を選ぶか、という事を考えさせられます。